

第1回6月 東大本番レベル模試 (2022年6月5日実施)

【1】-A (10点満点)

【例1】

人の意識は希少性によって集中する。多くの分野で、締め切りを設けて時間の欠乏を意識させると生産性が上がり、人は目の前の仕事により集中して、作業の効率が高まる。(78字)

【例2】

欠乏は人の心を集中させる。様々な分野において、締め切りなどの制限によって生じた時間の不足は、人を目下の課題に集中させ、生産性を向上させて、より大きな成果を生む。(80字)

必須項目 (10点)	<p>① 「心理学の実験では締め切りがきつい方がより生産的だった」 Psychologists have studied the benefits of deadlines in experiments. The group with tighter deadlines was more productive.</p> <p>▶ 「締め切り」(deadlines)に相当するものがないものは2点減点。 ○「期限」は「締め切り」と認める。 ×「デッドライン」は「締め切り」と認めない。 ×「時間が足りない」は「締め切り」と認めない。</p> <p>▶ 「生産的」(productive)に相当するものがないものは2点減点。 ○「生産性が上がる」は「生産的」と認める。 ○「より多くのもを生み出す/より大きな成果を生む」は「生産的」と認める。 ○「今やっていることからより多くのもを得る」は「生産的」と認める。 ×「より多くのエッセイを校正した」など、具体例による説明は「生産的」と認めない。</p> <p>② 「いかなる種類の欠乏も我々の精神をより集中させる」 Scarcity of any kind causes our mind to be more focused.</p> <p>▶ 「欠乏」(scarcity)に相当するものがないものは2点減点。 ○「不足/希少性/足りない(こと)」は「欠乏」と認める。 ×「まれ(なこと)」は具体例とかみ合わないので認めない。 ×「貧困/スケアシティ」は「欠乏」と認めない。</p> <p>▶ 「精神」(mind)を集中(focused)させる」に相当するものがないものは2点減点。 ×mindに相当するものがないもの(「集中」だけ)は「精神を集中させる」と認めない。 ○「心/意識/気持ち」は「精神」と認める。 ×「(精神を)捉える/つかまえる」など意味が曖昧なものは「集中」と認めない。 ×「マインド/思い/考え/感情/心理」は「精神」と認めない。</p> <p>③ 「締め切りが効果的なのは欠乏を生み出すからである。締め切りは今現在の課題を最優先にする。時間が足りないと、今やっていることからより多くのもを手に入れる」 Deadlines are effective precisely because they create scarcity. ... , a deadline makes the current task top of mind. When time is short, we get more out of what we do, ... – the positive outcome of scarcity capturing the mind.</p> <p>▶ 「今現在の課題」(the current task)に相当するものがないものは2点減点。 ○「当面の仕事」は「今現在の課題」と認める。 ○「今やっていること」(what we do)は「今現在の課題」と認める。ただしcurrent(今)に相当するニュアンスを含むことは必須。</p>
---------------	--

- ① 内容の不足は上記配分で減点。内容の順序は問わない。
- ② その他、誤訳、不適切な表現は1箇所につき2点減点。
- ③ 字数制限を満たさないものは0点。

【2】－A (12点満点)

【問題】

あなたは、真夜中、交通量が少ない道の横断歩道の赤信号を守るか守らないか。理由を添えて、60～80語の英語で述べよ。

【例1】 Even when there's only a little traffic at night, I stop at red lights. I believe that rules need to be followed by everyone at all times because rules are essential for the stability of society and the safety of its people. When many people break the rules, society becomes chaotic, and everyone, including the rule-breakers, suffers from various disadvantages. A member of society should not decide for themselves when to follow rules and when not to. (77語)

(夜、少ししか車が走っていないときでも、私は赤信号で止まります。どんなときでも、皆ルールは守るべきだと考えます。というのは、ルールは社会の安定と人々の安全のために不可欠なものだからです。ルールを破る人が多いと社会は混乱します。そして、ルールを破った人を含め、誰もが様々な不利益を被ります。社会の構成員は、ルールを守るときと守らないときを自分勝手に決めるべきではありません)

【例2】 I obey the signals at pedestrian crossings even in the middle of the night when there aren't many cars going by. When traffic is light, drivers often speed, and you can't see them very well in the dark. Even if you think the car isn't coming or is still far away, it might actually be much closer. Also, it is difficult for drivers to see pedestrians at night. You can never be too careful. (74語)

(真夜中に車があまり通っていないときでも、私は横断歩道の信号を守ります。交通量が少ないときは、スピードを出すドライバーが多く、暗い中ではあまりよく見えません。車が来ていない、あるいはまだ遠くにいても、実はずっと近くにいるかもしれません。また、夜間はドライバーからも歩行者が見えにくいのです。用心するに越したことはありません)

【例3】 When there is little traffic at night, I walk across the street even if the light is red. It's ridiculous not to do so when you know no cars are coming. I sometimes hear people say rules must be obeyed at all costs, but this attitude of following rules blindly can stop you from thinking and making decisions for yourself. It is important to be flexible, think about the rule's purpose, and make rational decisions. (75語)

(夜中に交通量が少ないときは、私は信号が赤でも通りを渡ります。車が来ないと分かっているのに、そうしないのはばかげています。ルールは絶対に守らなければならないというのを耳にすることがありますが、こうしたルールに盲従する姿勢は、人が自分で考え、判断することを止めてしまう可能性があります。柔軟性を持って、ルールの目的を考え、合理的に判断することが大切です)

【例4】 If the traffic is light at midnight and I can be sure it's safe, I will cross the street against a red signal. We have traffic lights to make traffic flow smoothly and ensure the safety of pedestrians and drivers. When it is clear that these two purposes are already being achieved, it would just be a waste of time to keep waiting for the crosswalk signal to turn green. (70語)

(真夜中に交通量が少なく安全が確認できれば、私は赤信号でも通りを渡ります。信号機があるのは、交通の流れをスムーズにするためと、歩行者とドライバーの安全を確保するためです。この2つの目的がすでに達成されていることが明らかな場合、横断歩道の信号が青になるのを待ち続けるのは時間の無駄でしかないでしょう)

1. 文法・語法・綴りの誤りは1箇所につき2点減点。同じ誤りでもすべて減点。
2. 語数制限(60～80語)を満たさないものは0点。
3. 内容面で下に該当するものは、それぞれ該当の点数を減点。

ポイント1 「あなたは、真夜中、交通量が少ない道の横断歩道の赤信号を守るか守らないか」に対する答え

- * 「あなたは、真夜中、交通量が少ない道の横断歩道の赤信号を守るか守らないか」に無関係なものは6点減点。
- * 「横断歩道の赤信号を守るか守らないか」に対する答えになっても「(真)夜中/交通量が少ない」のいずれにもまったく触れていないものは3点減点(ポイント2)の理由の中で触れているものは認める)。

*理由を述べたあと、最後に「守るか守らないか」に答えているものは6点減点。

ポイント2 (真夜中、交通量が少ない道の横断歩道の赤信号を守る[守らない]) 理由

- * 「(真夜中、交通量が少ない道の横断歩道の赤信号を守る[守らない]) 理由」がないものは**6点減点**。
- * 論旨が一貫していないと採点者が判断できるものは**3点減点**。

その他：語数を増やすため設問とは無関係なことを述べて脱線しているものは**6点減点**。

【2】－B (12点満点)

【問題】

昔からの議論の中でいつまでも結着の付かぬものは、多くは、双方ともに境界のない所に境界ありと思い誤って、さてその境界はどこにあるかと、互いに論じ合っているものようである。

【例1】 Many of the age-old debates that have never been settled seem to be those in which both sides wrongly believe that there is a boundary when there is actually no boundary, and then argue with each other about where that boundary is.

(昔からの論争で決着がつかないものの多くは、実際は境界がないのに境界があると両者が勘違いして、ではその境界はどこなのかについて、互いに言い争っているものようである)

【例2】 There are some old arguments that have never come to an end. In most of them, it seems both parties mistakenly believe that there is a dividing line where there is no such line, and they dispute with each other about where that line should be.

(昔から、一向に決着がつかない議論がある。その多くは、両方の側が境界線などないところに境界線があると勘違いし、その境界線があるべき場所について互いに言い争っているようである)

【例3】 Some discussions between people of different opinions have long been around, never reaching a consensus. I suppose, in many of those cases, each side has the false idea that there is a dividing line somewhere, though it doesn't actually exist, and they are debating where exactly it is.

(意見の異なる人の中で、合意が得られないままに、長い間続いている議論がある。どうやら、そういうものの多くは、それぞれの側が、実際には存在しないのに、どこかに境界線があるという間違った考えを持っており、その正確な場所がどこであるかを議論しているように思われる)

【例4】 Many old, never-ending debates seem to be debates in which both sides have a wrong belief that there is a border even though no border exists, and they are arguing with each other about where the border is.

(昔からの終わらない多くの論争は、境界が存在しないにもかかわらず境界があるという間違った思い込みを両者が持ち、その境界がどこにあるかについて互いに議論している論争のようである)

1. 文法・語法・構文・綴りの誤り、不適切な訳語…すべて1箇所につき**2点減点**。同じ誤りでもすべて減点。

2. 以下の①～⑥の区分に指定の得点を配分。

- ① (2点) 昔からの議論の中で
- ② (2点) いつまでも結着の付かぬ
- ③ (2点) ものは、多くは、.....ものようである
- ④ (2点) 双方ともに境界のない所に境界ありと思い誤って
- ⑤ (2点) さてその境界はどこにあるか
- ⑥ (2点) と、互いに論じ合っている

【4】－B（ア）（4点満点）

<問題部分>

those places, familiar like no others, determine our identity and create the framework of what we will always search for in a home.

<例 1>

他のどの場所にも代えがたい親しみのあるこうした場所は、自分が何者であるかを規定し、自分のすみかに常に求めるものの枠組みを作り出すのである。

<例 2>

どこよりも慣れ親しんだその場所は、私たちのアイデンティティーを決定づけ、私たちが我が家に求め続けるものの骨子を作り出す。

区分	配点	具体事例
those places, familiar like no others, 他のどの場所よりも親しみある、そのような場所は	2点	×familiar が形容詞だとわかっていないものは不可。 ○like no others の訳は「他の場所とはまったく違って／他のいかなる場所にも代えがたい／どこよりも」など広く認める。
determine our identity 我々のアイデンティティーを決定する		×those places (S) determine (V)のSV 関係がわかっていないものは不可。 ○determine は「決定する／決める／規定する／定義する」など可。 ○identity は「自分が何者か／自分が自分であること／正体／自己証明／身元／存在／アイデンティティー」など可。
and create the framework of ~ そして～の枠組みを創り出す	2点	×andが determine と create を結ぶ接続詞だとわかっていないものは不可。 ○framework は「枠組み／枠／骨組み／骨格」など可。 ×framework に「フレームワーク」は不可。
what we will always search for in a home 我々がいつも家に探し求めるもの		×what が search for の目的語だとわかっていないものは不可。 ×always の訳抜けは不可。 ○search for は「さがす／求める」も可。 ○home は「故郷／ふるさと／母国／家庭」も認める。

- ① 上記の区分に分けて配点。区分内に1か所でも誤りや訳漏れがあればその区分は0点。
- ② 語句の誤訳、訳漏れ、英語のまま、不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【4】－B（イ）（4点満点）

<問題部分>

It's enough to look at the American map, where one can detect place names such as New London, Frankfurt, and Moscow, often within geographical surroundings that have little in common with the original places they refer to.

<例 1>

これはアメリカの地図を見れば分かることで、ニューロンドン、フランクフルト、モスクワといった名前を、その名の由来となった元の場所とはしばしばかけ離れた地理的環境の中に見つけることができる。

<例 2>

アメリカの地図を見るだけで分かることだが、ニューロンドン、フランクフルト、モスクワなどの地名が、それらが指す元の場所とは似ても似つかない地理的環境の中によく見つかる。

区分	配点	具体事例
It's enough to look at the American map (これは) アメリカの地図を見るだけで十分である	2点	○It は形式主語（訳出不要）だが、全体の訳が「これは～/それは～」のような意識になっていても認める。 ○enough の訳は「見ればわかる」など広く認める。 ○where の前で切って、where 以下の訳を付加的に続けているものも可。
where one can detect place names such as New London, Frankfurt, and Moscow ニューロンドン、フランクフルト、モスクワというような地名を見つけることができる		○detect の訳は「見つける/発見する/知る」など可。 ×place names「地名/場所の名前」が detect の目的語だとわかっていないものは不可。 ○such as は「例えば～という/～など」も可。
often within geographical surroundings よく地理的環境の中で	2点	×often の訳抜けは不可。 ×geographical の訳抜けは不可。 ○surroundings に「状況/周囲/周辺」も減点しない。
that have little in common with the original places they refer to. それらが言及する元の場所とはほとんど共通点がない（地理的環境）		×that が geographical surroundings を先行詞とする主格の関係代名詞だとわかっていないものは不可。 ×little が否定語だとわかっていないものは不可。 ○original は「元の/元々の/最初の/由来となる」など可。 ×original に「オリジナルの」は不可。 ×places と they の間に目的格関係代名詞の省略があることがわかっていないものは不可。 ○places は「都市/街」なども可。 ×they を place names 以外ととっているものは不可。 ○refer to の訳は「指す/由来となる」など広く認める。

- ① 上記の区分に分けて配点。区分内に1か所でも誤りや訳漏れがあればその区分は0点。
- ② 語句の誤訳、訳漏れ、英語のまま、不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【4】－B（ウ）（4点満点）

<問題部分>

small things that help to create the illusion of home and reduce the foreignness of the environment

<例 1>

ふるさとの幻想を作り出し、周りの異質さを減らすのに役に立ってくれる小さな物たち

<例 2>

故郷にいるような錯覚を起こさせ、周囲の異質感を和らげる助けとなる小さな品々

区分	配点	具体事例
small things that help to ～ ～するのを助ける小さな物	2点	○small の訳は「細かい／ささいな」なども可。 ○things の訳は「もの／品」など可。 ×things に「こと／物事」は不可。 ×that が small things を先行詞とする主格の関係代名詞だとわかっていないものは不可。 ○help は「助ける／手伝う／役立つ／一助となる」など可。 ×名詞句の訳になっていないもの（文のように訳しているもの）は不可。
create the illusion of home 故郷の幻想を創り出す	2点	○illusion は「幻／幻影／仮想世界」など可。 ×illusion に「夢／にせ物／代替物／魔法／魔術／イリュージョン」は不可。 ○home は「故郷／ふるさと／母国」など可。 ×home に「家／家庭」は不可。
and reduce the foreignness of the environment そして環境の異質さを低減する		×and が create と reduce を結ぶ接続詞だとわかっていないものは不可。 ○reduce は「減らす／低減する／和らげる」など可。 ○foreignness は「異質さ／外国であること／違和感」など可。 ○environment は「環境／周囲／状況」など可。

- ① 上記の区分に分けて配点。区分内に1か所でも誤りや訳漏れがあればその区分は0点。
- ② 語句の誤訳、訳漏れ、英語のまま、不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【5】－(A) (4点満点)

<問題>

下線部 (A) の具体的な内容を 40 字程度の日本語で説明せよ。

an odd sort of dance

<例 1>

目立たなければ仕事で生き残れないが、目立ちすぎると自分が詮索されることになる。(39 字)

<例 2>

激しい競争を勝ち抜こうとしながら、目立ちすぎれば余計な詮索を招くとおびえている状態。(42 字)

① 29 字以下または 51 字以上は 0 点。文末の句点は不問。

② 次の (1) (2) が必須項目。

(1) 「競争の激しい報道局で目立とうとする [抜きん出ようとする]」(trying to stand out in a highly competitive newsroom)に相当するもの (これがないものは**2点減点**)

○ 「目立たなければ仕事で生き残れない」「激しい競争を勝ち抜こうとする」「職場では目立たなければならぬ」など可。

(2) 「目立ちすぎれば望まない注目を招く」に相当するもの (これがないものは**2点減点**)

× if I stood out too much 「目立ちすぎれば」に相当するものがないものは不可 (－2 点)。

× invite unwanted attention 「望まない注目を招く」に相当するものがないものは不可 (－2 点)。

○ 「詮索される／身元を暴かれる／不法移民だとばれる」は「望まない注目を招く」と認める。

× 「おとなしくしていれば注目を招かない」は「目立ちすぎれば注目を招く」と認めない。

【5】－(B) (4点満点)

<問題>

下線部 (B) を和訳せよ。

I'm done with running

<例 1>

もう逃げ隠れするのはやめた。

<例 2>

逃げるのはもう終わりだ。

区分	配点	具体事例
I'm done (with running) (逃げるのは) もうやめた	2 点	× I'm done が現在完了だとわかっていないものは不可。 × I'm done を受動態ととっているものは不可。 ○ I'm done は「もう終わりだ／もう終わった」など可。 ○ 「もう逃げ隠れはしない」など、文脈に合う意識は認める。
with running 逃げるのは (もうやめた)	2 点	○ run は「逃げる／逃げ回る／逃げ隠れする」など可。 ○ run に「隠れる／不法移民であることを隠す」は可。 × run に直訳の「走る」は不可。 ○ with の訳は、「～に関して」というニュアンスであれば認める。

① 上記の区分に分けて配点。区分内に 1 か所でも誤りや訳漏れがあればその区分は 0 点。

② 語句の誤訳、訳漏れ、英語のまま、不自然なカタカナ書きは減点。

③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。